体 育 学 研 究

第 11 卷 第 4 号

昭 和 42 年 3 月

T. SASAJIMA: Studies of the Constitutional History of
Physical Education (1) Schools in China

中国学校体育の制度史的研究

(清 朝 末 期 より 中 華 民 国 初 期)

慶応義塾大学 笹 島 恒 輔

1 は じ め

中国において近代式の学校が設けられ、学校において体育が行なはれるようになったのは阿片戦争（1840年～1842年）に中国が敗れ開国して以後である。

東洋の老大国として威信と体面を中外に誇っていた清も 19 世紀中期からの西欧諸国の東洋連出に伴ない、1840 年の阿片戦争、1850 年から15年間にわたった太平天国の乱、1860 年の英仏清戦争、1884 年の仏清戦争に敗れ、その結果西欧諸国を夷狄視する中華思想は一転して西欧文明に対する畏怖崇拝に変わり、西欧文明を輸入しなければならないと考えた。

その為新式学校の創立に乗り出し、同治元年（1862年）に西洋文明を取り入れるための外国語教育の機関として北京に京師同文館を設立し、つづいて各種の洋式学校を設立した。その中には軍隊を洋式化するための軍関係の学校も含まれていた。

光緒20年（1894年）に起った甲午の變（日

清戦争）に敗れると、その原因は西欧化した日本に敗れたとして学制の公布に踏み切り、光緒28年（1902年）に中国最初の学制「欽定学堂章程」を公布し、次いで光緒29年に「奏定学堂章程」を公布した。しかし、学制は公布されたものの全国的に実施されないうちに清朝は倒れ、中華民国が成立した。

中華民国政府は民国元年（1912年一壬子）9月4日に「壬子学制」を公布し、次いで民国4年7月に「国民学校令」を公布した。

民国初期の10年間は中国がいまだ統一されず、第2革命、第3革命、南北対立、安・直・奉3派の抗争と続き国内は安定せず、学制は公布されていたが全国的に実施することは不可能であり、わずかに大都市並びに一部地域で実施されていたにすぎなかつた。

民国11年（1922年）にそれまでの日本式の学制に代る米國式の6・3・3制を採用した「壬戌学制」が公布された。「壬戌学制」が公布されたとはいうものの、民国14年には広東に国民

政府が樹立され、民国15年に北伐を開始し、民国17年に張作霖の死によつて中国が国民政府により統一されるというように中国統一の為の内戦が相次いで行なわれるという混沌とした時期であつた。

北伐を完了して中国を統一した国民政府は思想統一にのりだし、民国17年(1928年)6・3・3制を中国の実情に沿うように改めた「戊辰学制」を公布し、この「戊辰学制」を徹底させるために民国18年に「学校法」を公布した、この「学校法」により中華民国の学校系統は確立された。

しかし、満州事変(民国20年—1931年)以後の日本の大陸進出にともなり、民国26年(1937年)には日華事変が起こり戦線の拡大とともに国民政府は奥地に移転し太平洋戦争となつた。民国34年(1945年)に日本の敗北で太平洋戦争は終了したが、戦後国民党と共産党の争いは激しくなり、一時優位を示した国民党もその後共産党に敗れ、国民政府は台湾に移転した。

このような社会情勢の変転に適する様に学校の課程標準も民国31年(1942年)、民国51年と改訂されていった。体育の授業時数、授業内容、目標も社会情勢に適合する様に学制の改訂、課程標準の改訂のたびに変更されて現在にいたっている。

2. 清朝滅亡まで

中国が開国して以後同治元年(1862年)に西洋文明をとり入れるための洋式学校の京師同文館が設立され、つづいて各種の学校が設立されたがその中には軍隊を近代化するための軍関係の学校も含まれていた。軍関係の学校を設立したのは威力ある洋砲、軍艦を買い求め、外国人を招いてその操作を学べば強力な中国を建設しようと考えたからである。

同治元年(1862年)から光緒20年(1894年)にかけて外国語学校、実業学校、軍関係の学校の設立に力がそそがれていたが、特殊需要

をみたす為の専門教育のみを行なつていたので軍関係の学校を除いてはその授業内容に体育関係の課目は見当らなかつた。

また、当時の中国に数多く設立されていた教会学校(ミツシヨンスクール)(光緒2年—1876年—289校、光緒32年—1906年—5137校)は中華民国になり收回教育権運動が盛んになるまでは治外法権的立場をとつていたので一部の学校を除いては体育の授業は実施していなかつた。

光緒26年(1900年)には西欧化に反対する排外運動としての義和団の変が起こり清朝の威厳はますます衰え、光緒28年(1902年)には武官採用試験の武挙が廃止され、官吏採用試験の科挙も内容が変更されたが、その科挙も光緒31年(1905年)に唐以後千数百年間続いた歴史に終止符を打たれた。

一方近代学制公布への動きも活潑化し、光緒27年には各省の書院を中国の近代学校の名称である学堂と収め、光緒28年に「欽定学堂章程」を公布した。この「欽定学堂章程」も殆ど実施されないうちに清朝内の派閥争いから廃止され、光緒29年に「奏定学堂章程」が公布された。この両学堂章程は各国の教育制度のうち特に日本のを参考にしたものである。

「欽定学堂章程」は教育を3段7級に分け、6才を学令として、初等教育10年、中等教育4年、高等教育6年の20学年制をしいた。これには実業教育・師範教育も含まれていたが、女子教育は含まれていなかつた。(第1表)

「奏定学堂章程」は教育を3段7級に分け、7才を学令として初等教育9年、中等教育5年、高等教育6～7年、通儒院(大学院)5年と定め外に実業教育、師範教育をも含んでいた(第2表)。しかし、女子教育は光緒33年(1907年)まで実施されなかつた。また、義務教育は「欽定学堂章程」「奏定学堂章程」とともに実施しなかつた。

体育の自標、要点、授業順序については「欽定学堂章程」では何も規定しなかつた。

第 1 表 欽定学堂章程

第 2 表 奏定学堂章程

「奏定堂章程」では、
初等小学堂—其の 要義は兒童の 身体活動により發育を均齋にし、其の惡習を矯正し、其の氣血を流動し、其の精神を鼓舞し、兼ねて団体活動での 秩序を養成し、礼儀ある習慣をつけ、伴せて有益の遊戯と 運動を指導し以て其の考えをのぼさせる。
高等小学堂—其の 要義は身体各部を 均齋に發育させ、四肢の動作を敏捷にし、精神を爽快にし志氣を 勇壯にし、併せて団体活動を楽しみ、規律を守る習慣を 養成する、兵式体操を主とする。
女子初等小学堂・女子高等小学堂—体操の要旨は身体各部の 發育を均齋にし、四肢の動作を機敏にし、規律を守り、協同の公義を貴ばせるにある。其の教科の程度は、女子初等小学堂に於ては 適宜の遊戯、時には音楽の伴奏で之を教え、順次普通体操に進む。女子高等

小学堂では 普通体操と遊戯を教える。遊戯を教える際には活潑愉快に行なわせる。ただし、不踏放縱にならない様に注意する。また、授業で教えた姿勢を常に保持させる。（女子の規定は光緒33年—1907年—公布。）
中学堂—中学堂の体操は 実用を主とし、普通体操は準備法、矯正法、徒手、啞鈴を先に次いで球竿、棍棒に進む。兵式体操は各個教練、柔軟体操、小隊教練、器械体操次いで中隊教練、銃剣術、野外教練、兵学大意と進む。およそ体操を教える者は、規律肅静、体勢整齋、意氣充実、運動活潑を旨とし、併せて地方の状況に適合させる。若し水郷であれば水泳を練習させる。中学堂では 兵式体操を主とする。
初級師範学堂—中学堂以上の 体操は 実用を主とし、普通体操は準備法、矯正法、徒手、啞鈴を先に、次いで球竿、棍棒に進む。兵式

体操は各個教練，柔軟体操，小隊教練，器械体操，次いで中隊教練，銃剣術，野外教練，兵学大意と進む。

次ぎに師範に体操を教えるものは体操の順序，法則を講じなければならない。およそ体操を教える者は，規律静肅，体勢整齊，意気充実，運動活潑を旨とし，併せて地方の状況に適合させ，若し水郷であれば水泳を練習させる。師範生の体操は兵式体操を主とする。

女子師範学堂一体操の要旨は身体各部を均等に發育させ，動作を機敏にし，挙措を嚴肅にし，協同と規律の有益を守らせる。其の教科は普通体操，遊戲並に体操教授法の順序で教える。（光緒33年—1907年—以降）

高等学堂，優級師範学堂並びに其の他の学堂については何等の規定も公布されなかつた。

授業時数と授業内容

「欽定学堂章程」では，蒙学堂，小学堂，高等小学堂では12日を1週としており，その他の学堂では7日を1週としていた。

蒙学堂は1～2年毎日1時限，3～4年週8時限。1～2年整列法，行進法，3～4年演習体勢，小学堂は毎日1時限柔軟体操。高等小学堂は1年週6時限，2年5時限，3年3時限で柔軟体操。器具体操。中学堂は週2時限で1～2年普通体操，器具体操，3～4年器具体操，兵式体操。高等学堂は文科週3時限，理科2時限で兵式体操。師範学堂は授業時数についての規定はなく，授業内容は兵式体操，師範館は週3時限で，1～2年器具体操，3年兵式体操，4年兵式体操，体操教授法。

「奏定学堂章程」

初等小学堂は週3時限，1年遊戲，有益の運動，2～5年有益の運動，遊戲，普通体操。高等小学堂は週3時限，普通体操，兵式体操，有益の運動。中学堂は週2時限，普通体操，兵式体操（兵式を主とする）。高等学堂は週3時限（医科コース3年のみ2時限），普通体操，兵式体操。初級師範学堂は週2時限，1～4年普通体操，兵式体操，5年普通体操，兵式

体操，体操教授法。優級師範学堂は週3時限。体操，有益の運動，兵式訓練。

女子の学校の規定は光緒33年（1907年）に公布された。それによると，

女子小学堂は週4時限，1年遊戲，2～4年遊戲，普通体操。女子高等小学堂は週3時限，遊戲，普通体操。女子師範学堂は週2時限，普通体操，遊戲，体操教授法。

「奏定学堂章程」においては実業関係の学校では授業時数，内容については何も定めておらずただその学科目の中に体操という科目をおいているにすぎなかつた。

体育施設については「欽定学堂章程」「奏定学堂章程」ともに体操場は屋外と屋内の2カ所設けるように規定し学校別の規定を定めている。

また，授業方法について「欽定学堂章程」では小学堂，高等小学堂，中学堂，高等学堂で，「奏定学堂章程」では初等小学堂と高等小学堂で数学級同時に授業を行なつて良いと規定している。

光緒32年（1906年）3月に宣示された教育宗旨の上諭にも日本の各学校の体育の授業の規律と嚴整さについてのべているところを見ると，学制として体育の授業内容を定めてはいるが，規定通りに実施されていたかどうかは非常に疑問のもたれるところである。

また，中国の文盲率は極めて高く，民国21年（1932年）当時で小学生は全児童の10%であり，太平洋戦争の終つた民国34年（1945年）に於ても全国民の文盲率は80%の高率であつたことからすれば学校に於て体育の授業を受けられたものはかぎられた上流社会の子弟にすぎなかつたであろう。

特に光緒33年（1907年）に女子の学制が公布されたとはいえ女子の纏足禁止令が公布されたのが光緒28年（1902年）であり，確実に下火となつたのは民国20年（1931年）といわれているので纏足した上流社会の子女はたとえ学校に通学したとしても体育の授業に出席

するということは不可能であつたであろう。

宣統元年（1909年）には「奏定学堂章程」の改訂が行なわれ、教員の不足、施設の不備という中国の現状に調整され再出発することになった。それにより、小学堂の体育の時間は毎週1時限ずつ増加したが、都市の学校では体育を必修とするが郷村の学校では随意科目とした。この措置は大都市では施設も教員も充足されたが、地方では施設も体育教員も不足していた為と考えられる。

3 中華民国工

宣統3年（1911年）10月10日に武昌に起つた革命は辛亥革命といわれ、この革命により古代より数千年間続いた君主制が倒れ、1912年1月に中華民国が出現し、1912年を中華民国（略して民国）元年とし太陽暦を採用した。辛亥革命により中華民国が生れたとはいうものの政権獲得のための軍閥間の戦争がくりかえされた。

中国国民党は民国12年（1923年）連ソ容共の方針のもとに大改造を行ない、民国14年11月広東に国民政府を樹立し、民国15年に北伐を開始した。北伐軍の蔣介石はクーデターにより共産党と訣別した。民国17年（1928年）張作霖の死により北伐は完了し中国全土は国民党の支配下に入った。

この時期には「壬子学制」「壬戌学制」と公布されたが、「壬子学制」の時期は清朝が倒れ、中華民国が成立したとはいうもののいまだ内政不安と財政逼迫によつて学校教育も十分に行なはれず、「壬戌学制」の時期は中国統一の戦が各地で行なはれ安定期には向いつつあが情政の不安定から教育も十分に行なはれていなかった。

中華民国が成立すると同時に教育部（文部省）が設けられ、民国元年（1912年）1月に「普通教育暫行弁法」を公布し、次いで同年6月「壬子学制」を公布し初級小学校の男女共学を実施し、学堂を学校と改称した。

「壬子学制」も日本の教育制度を参考にしたものであるが、清朝の教育制度に比して学校体系が簡素化され、小学校より大学に至るまでの年限が短縮された。「壬子学制」は6才を学令とし初等小学校の4カ年を義務教育とするとしていたが実際には実施されなかつた（第3表）。

第3表 壬子学制の学校系統図

「壬子学制」によつて大綱が示されたのち各種学校令が公布され詳細な規定が示された。

民国4年（1915年）7月に「壬子学制」の小学校の部分が軍国的な富国強兵の立場から改正され、「国民学校令」「高等小学校令」が公布された。

民国8年（1919年）に教育部から「教育法規彙編」が出された。同書によると体育の授業時数と内容は、

国民学校は1～2年唱歌と半々で週4時限、

3～4年週3時限，1年遊戯，2～4年遊戯と普通体操。高等小学校は週3時限，普通体操，遊戯，男子には兵式体操を加える。中学校は男子週3時限，女子2時限，男子は普通体操，兵式体操，女子は普通体操，遊戯，ダンス。師範学校は男子週4時限，女子3時限（本科4年は2時限），男子は本科2年まで普通体操遊戯，兵式訓練，本科3～4年は教授法が加わる。女子は普通体操，遊戯で他は男子に同じ。高等師範学校は週3時限，普通体操，遊戯，兵式体操。実業学校については各種学校の教授内容に体操という項目があるが，時間数その他についてはふれていない。

体育の目的

国民学校・高等小学校一児童の身体各部を平均に発育させ，強健な身体と活潑な精神を養い，規律と協同の習慣を養成する。

中学校一身体各部を平均に発育させ，強健な身体と活潑な精神を養い，規律と共同の習慣を養成する。

師範学校一身体各部を平均に発育させ，強健な身体と活潑な精神を養い，規律と共同の習慣を養成し，併せて，高等小学校と国民学校の体操教授法を理解させる。

「壬子学制」では施設についても規定しており，授業方法については小学校では数学級同時に，中学校・師範学校では異学年，異学級同時に授業を行なつてよいとしている。

体育の課程標準は「壬子学制」の時期にも公布されなかつた。

清末から民国初期にかけては日本に留学する者が多く学制にもその影響が多かつたが，民国7・8年頃には米国に留学して帰国する者が次第に多くなり社会的にも相当な勢力となつた。その上，John Dewey の中国での講演の影響もあり当時の米国において最も盛んな小・中学校の6・3・3制を中国に移植しようとする動きが現われた。

「壬子学制」はいくつかの欠陥があると認められていたので各団体から種々の建議がなさ

れ，学制改革のための会合が開かれた。民国11年(1922)教育部は学制改革の免れえないことを知り，9月に学制會議を召集し全国教育聯合会の草案に対して修正を加え，同年12月全国教育聯合会を開き学制草案に最後の修正を行ない新学制「壬戌学制」を公布した。

「壬戌学制」はそれまでの学制が日本式のエ育制度であつたのに対して米国式のエ育制度である(第4表)。

第4表 壬戌学制

「壬戌学制」は6才を学令とし小学校は初級4年高級2年でしばらくは4年を義務教育とすると規定したが，義務教育は実際には実施されなかつた。

「壬戌学制」が公布されはしたが国内では統一のための内戦が続いて混沌としており，且つ学校の多く設けられている地方が内戦の舞台となつたために学制は公布されたが各学校法

も課程標準も公布されず、学校教育も十分には実施されていなかった。

政府からは新学制の学校法 その他の関係法規が公布されなかつたので全国教育聯合会では新学に対する制度を公表した。

「壬戌学制」の時期には教会学校に対する収

回教育権運動はますます盛んとなつていた。

（以下次号）

（本稿は昭和39年度文部省科学研究費〈各個研究〉による研究である。）

Studies of the Constitutional History of Physical Education (1)

— Schools in China. —

(From last stage of Ching Dynasty to early days of Republic of China.)

T. Sasajima
(Keio University)

China promulgated an law of educational system following after that of Japan in 1902 and 1903, and established a system from primary school to the post-graduate course. In reference to physical education, the objectives, the time alstment, the contents and the curricula were expressly provided. Before the system got under way however, the Ching Dynasty had fallen and Republic of China was founded.

The Republic of China promulgated, also, an law of educational system in 1912, modeled after that of Japan, but the circumstances in China did not allow to enforce the system fully. We find stipulations for the objectives and facilities of the physical education in this educational programme.

In 1922, a new educational system was adopted instead of the Japanese system. This is so-called 6-3-3 system following after that of U.S.A.. On account of continued civil war, this system did not come into force until Kumintang could bring the country under its authority.